

1986年(昭和61年)8月11日(月曜日) IBM20452

週刊読書人

毎週月曜日発行

定価 180円

発行所 株式会社読書人 東京都新宿区矢来町109 郵便番号162 電話(260)5790・5791 振替口座 東京5-57070

©株式会社読書人 1986

本号 12頁

印刷所 株式会社デイ・エス

1986-15-①

モダンvsポスト・モダン

ハーバーマス・リオタール論争を中心に

橋爪 大三郎



リオタール



ハーバーマス

は価値がある。ハーバーマスの哲学の正統性を基礎づける必要はないが、だからといって、主観性の哲学と区別するあまり、ハーバーマスの「無味乾燥」にならぬことは、この「無味乾燥」の可能性は、西洋文化の三分法、カントによる文化の三分法、その「カルト」たるべきに受けるべきであらう、見えていないのだ。

明快で解りやすい

リオタールの主張

シェンクローチの言いつけは、むしろ「割る折衷的な趣きがある。リオタールがこの二人になんか思っているか知らないが、おとな高定的に知らない。いっしょにハーバーマスは、「客観主義的誤謬」を犯すものだとローチを批判し、あくまでも、理性の普通のな妥当性要求を理論的に基礎づけるべきだ。

「客観主義的誤謬」を犯す

「客観主義的誤謬」を犯すものだとローチを批判し、あくまでも、理性の普通のな妥当性要求を理論的に基礎づけるべきだ。

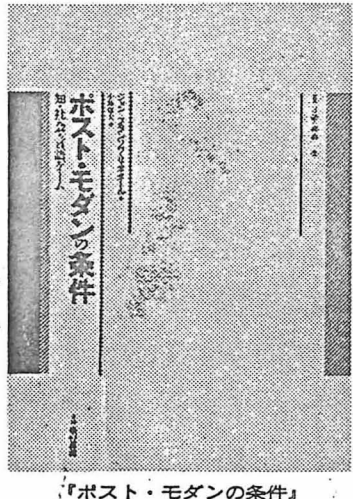
モダンかポスト・モダンかをめぐってハーバーマスとリオタールの間で交わされている論争については、モダン・リオタールの『ポスト・モダンの条件』(小林康夫訳、A5の113頁・21100円・書肆風の巻)の訳註が刊行されたので、わが国でもその輪郭が明確になってきた。本書ではこの論争について、『ポスト・モダンの条件』と他に二つの関連論文を加えて社会学者の橋爪大三郎氏に感想を寄せた。

〈言語ゲーム〉論の自由な変奏

「全体性に対する執念深い敵意」を共通項に

が伏線になっているのだ。彼は、西歐マルクス主義的な全むかって攻勢をとりリオタール理論の言語を立って直しての論理は、言語ゲーム論にある。言語ゲームは、後期ヴァンゲン・シャインの着想だが、リオタールはそれをかなり自由に変奏している。そして、「物」に依拠せざるをえない科学を、「モダン」と定義する。そうした「メタ物語」に対する不信感が「ポスト・モダン」の特徴なのだ。

ハーバーマスとローチの対抗関係、この「ポスト・モダンの条件」(1984)、『思想』86年の月号に翻訳あり。彼は「メタ物語」に「新保守主義」と感嘆して、その両者のあいだに割って立つ。その「割る」にも歩み寄るつもりだ。ローチは、普通主義哲学は不要と考えるが、リベラルな政治的



『ポスト・モダンの条件』

